

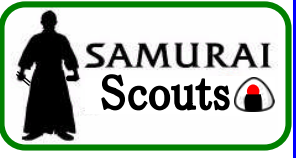


こいつは、なにものなんだ？

第37号で、ボーイ隊長から報告で、「写真①は、水中の微生物:画面中の米粒のようなものが激しく運動している。写真は×5のルーペ装着にて撮影。が、よくワカラン。×100のルーペで観察したところ、視野が狭すぎてよけいにワカランかった。ミジンコであろうか？」を、ヒマを持ってあましたボーイ隊長が、6/10に再度、観察に行ったそうである。結果的には、「田んぼのミジンコらしきものを顕微鏡で見たがやはりよくワカラン(写真②...×150で撮影。鞭毛らしきもので泳ぐようである。この写真ではよく見えない)×3、×4、×5のルーペ3枚重ね(つまり60倍か?)で撮影したもの(写真③)」であった。早速ネットで調査して研究及び協議したところ、実物を見ていないM副長は「カイエビ」と思ったが、「**カイミジンコ(微塵子・水蚤)**」であることが判った。名前からして、形状は稚貝のようである。調べるとカイミジンコは、節足動物門甲殻綱貝形亜綱というものに属するらしい。日本では水田に出現する。また、全身が二枚貝のような甲羅に覆われ、その隙間から脚を出して泳ぎ回る。水田にホウネンエビやカブトエビと共に出現するが、この両者に比べると知名度ははるかに低い。「ホ・ホ・ホウネンエビ」? また、わけの分からんヤツの名前が出てきたぞ! いくら物好きでも、マクロの世界の観察は道具がなくては太刀打ちできないので、これ以上の観察はやめておこう!

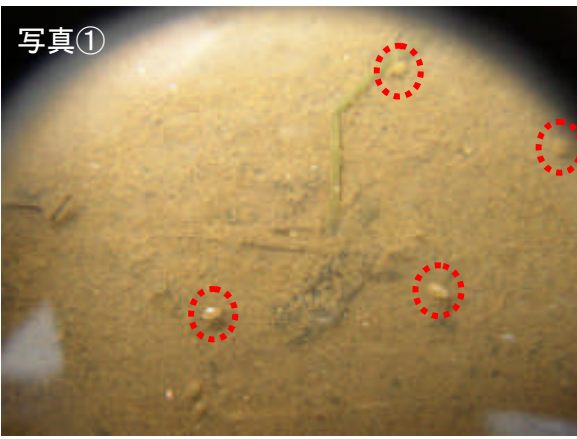
M副長新聞

ミジンコは怖くないぞ!でも拡大するとかわいくはない。



2009.6.21
第39号

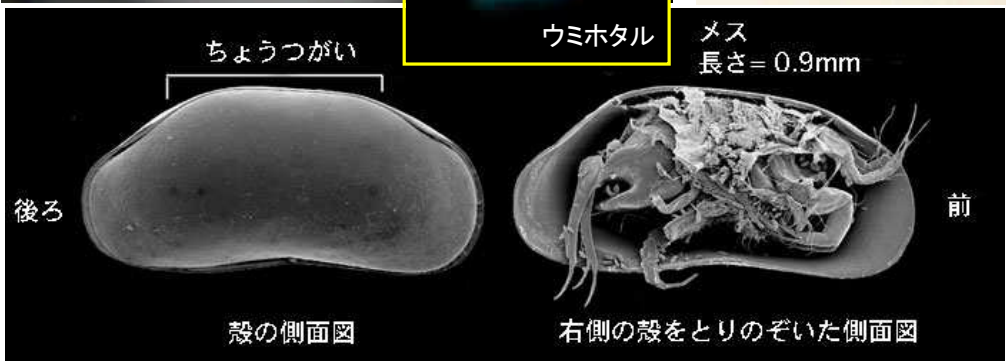
私は
チーム・マイナス6%です



6/8の報告。水中の微生物:画面中の米粒のようなものが激しく運動している。写真は×5のルーペ装着にて撮影。が、よくワカラン。丸い粒つぶが、カイミジンコ。



6/10の報告。×150で撮影。鞭毛らしきもので泳ぐようである。この写真ではよく見えない)カイミジンコの輪郭の一部か?



実物の大きさは、1ミッぐらいであるらしい。ジャズサックス奏者の「坂田明」氏がかなりのミジンコマニアと聞く。カイミジンコの卵は完全に乾燥した環境でも、何年も生き延びることができるようだ。うん! そういえば、子供のころ乾燥した卵から育てる【シー・モンキー】なるものが流行した。友だちが買ったのを見せてもらったが、2人で「そんなの田んぼにいっぱいいる」と話したことを思い出した。その田んぼとは、もちろん自分ちの田んぼである。

左はこんなことまで研究する人がいるのかと思うぐらいの、超拡大したカイミジンコ。明るい青く光る「ウミホタル」もカイミジンコの仲間だそう。

今回は、ミクロの世界なので、これ以上話題を膨らませることは出来なかった。

今回の企画は、こっぱミジンコである!

